

森づくりサポーターニュース

平成25年(2013)4月1日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

春のサポーター活動

平成24年度最後のサポーター活動が、3月2日(土)に行われました。

時折雪が舞う寒い日となりましたが、サポーター47名とガールスカウト45名(内大人5名)の計92名という多くの参加がありました。

サポーターの皆さんは、2004年に苗木が植えられた「ふれあいゾーン」で、主に間伐の作業をしました。

この区域は、植樹後8年程経過し、その間何回か間伐を行ってはおりますが、依然として、混み合っていて、陽の光が林床に届きにくく下草も生えない不健康な様相を呈していました。間伐後は、林の中がスッキリした状況になりました。

ここまで大きくなった木を切るのはいかたうそとの声も聞かれましたが、間伐は、健全な樹林の形成をはかる上で大切な管理作業です。間伐した木は「しいたけのほだ木」として利用できるように玉切りにし、センターまで運び出していただきました。

また、林の中で「イラガ」の越冬している状況(イラガの繭)をベテランサポーターの方に教えていただくなどちょっとした自然観察も出来ました。





ガールスカウトの皆さんには、自然教室として中村先生と江見先生から楽しいビンゴゲーム形式での「たねのひみつ」のお話をたいへん熱心に聴講していただきました。その後、研修室から外に出てサポーターさんやスタッフの皆さんと一緒にクヌギやコナラなどの間伐材に穴を開け、木槌を持って小さな穴にシイタケ菌を差し込み“大きなシイタケになりますように”と願いつつ一生懸命作業をしていただきました。サポーターさんも子ども達も寒さに負けない元気な笑顔で作業に取り組んでいただきました。作業後は毎年第4回サポーター活動で作るシイタケのほだ木からできた「森のしいたけ」をたっぷり入れた“具たくさん森なべ”をみんなでいただきました。具もたっぷり！愛情たっぷり！毎年おかわり続出が嬉しい大好評の森なべです。



樹木の名前 豆知識シリーズ

その9

【薔薇】

今回は「薔薇」（ばら）のお話です。

まず、インターネットからの情報（2012年7月6日付のマイナビ会員情報）ですが、「薔薇」は、ほとんどの人が書けない漢字のひとつなのに、「読める率」としては断トツに高い（マイナビ会員女性77.9%、同男性74.8%）漢字だそうです。「バラ」という植物・花が人々に広く愛されている、身近な植物・花になっているということなのでしょう。

その「薔薇」のいわれは後ほどにして、「バラ」というのは植物の「種」としてはなく、ほとんどの辞典では「ばら」（薔薇）はバラ科のバラ属の「総称として用いられている」と説明されていますが、一般的には西洋で様々な美しく品種改良されて移入された西洋バラ（Rosa）全般を「ばら」と呼んでいます。なお、江戸時代の「花壇地錦抄」（かだんじきんしょう：元禄時代に日本で最初に出版された園芸辞典）に「荊棘（けいきよく＝いばら）の類」に「ろうざ」（rosa）も列挙されているようで、この頃すでに西洋バラも日本に流入していたようです。

ところで、近年のAPG（被子植物系統発生グループ）の植物分類によると、地質時代の新生代（およそ6550万年前から現在まで）となる前の時代で中生代の終わりとなる白亜紀に、ある裸子植物（それがどの植物だったのかは不明のようですが）から突然変異で被子植物が生まれたそうです。それが様々な被子植物へと進化した後に現れた植物群がコア真正双子葉類（Core eudicots）と名付けられた植物群です。その中で最も進化し、分化した「目」、「科」、「属」に広がりをもったのがキクの仲間（Asterids）とバラの仲間（Rosids）なのです。ということで、バラ科の仲間が、地球上に現れたの

は比較的新しい時代ようです。

さて、日本語の「バラ」の語源ですが、古くはイバラやカラタチなど棘（とげ）のある低木類全般をあらわす「はり」（針）という言葉が母音交替し（はら）となり、これが（ばら）に変わったそうです。上代（文学史上の区分で、主に「万葉集」等が編纂された奈良時代）に、これに接頭語の「い」、「う」、「む」、がついて（いばら、うばら、（バ行とマ行の交替で→）うまら、むばら）とかになり、漢字としては「茨」がこれにあてられてきました。そのイ、ウ、ム、の音が江戸時代に脱落して、改めて近代の「ばら」が誕生したそうです。イダク（抱く）がダク、イドコ（何処）がドコなど、古代語が近代語になるときに共通する語頭の（イ）音が脱落する例とのことです。その「い」の脱落前の「いばら」が茨城県、茨木市など、今日まで地名として伝わっているようです。（つづく）



文責：柳田 英俊

空から見た「びわこ地球市民の森」の現況

森の航空写真の紹介です。

昨年（2012年）秋に、森づくりサポーターの「ふくの会」（レイカディア大学29期生）メンバーの和田皓さんに「びわこ地球市民の森」の航空写真を撮影していただきました。趣味のラジコンヘリコプター操縦の腕を生かして「つどいゾーン」と「出会いのゾーン」の2箇所を撮影。3年前にも撮影していただき、今回で2回目となります。12年が経ち、森へと生長していく状況がよく分かる貴重な写真です。ご協力ありがとうございました。



つどいゾーン



出会いのゾーン

森づくりトピックス

“びわこ地球市民の森のつどい2013”のご案内

今年も4月21日（日）に森の一大イベント“びわこ地球市民の森のつどい2013”が「里の森ゾーン」で開催されます。

13回目のつどいとなる今回は、～みどりに感謝し、みどりと共に～をコンセプトに、3,000本の一斉植樹のほかキャラクターなどとふれあえる“体験ブース”や人気の“食のブース”がオープンするほか“お楽しみブース”では、森の音楽会や移動動物園などが楽しめます。

例年多くの県民の皆さんのご参加をいただいておりますが、今年もたくさんのご参加をお待ちしています。



お知らせ

平成25年度（2013）森づくりサポーター活動の計画

平成25年度のサポーター活動日は、つぎのとおりです。

- ・平成25年4月21日（日） 植樹（びわこ地球市民の森のつどい2013）
- ・平成25年7月20日（土） 植樹地のつる切り、間伐、枝落とし
- ・平成25年10月予定 植樹地の間伐、枝落とし、ドングリの植えつけ
- ・平成26年3月予定 植樹地の間伐、枝落とし、シイタケ菌打ち

2013. 3月末現在

植栽面積	76,318㎡
参加者数	43,469人
植栽本数	152,029本
つどいのゾーン	23,639本
ふれあいゾーン	37,459本
出合いのゾーン	21,158本
里の森ゾーン	69,773本

編集後記

先月（2月）、森づくりセンター横の林に珍客がありました。トラツグミです。しばらく観察すると、しきりにおしりを振ってダンスをしています。

これが有名な「トラツグミのフラダンス」初めて見ましたが感激しました。ミミズなどの餌となる虫を誘き出しているのだそうです。

さて、森づくりセンターでは、4月から新たな体制（那須、柳田、馬場、潤井）になります。引き続きよろしくお願いいたします。

